

二期工事阻止！
 懐柔策粉碎！
 飛行阻止！

3.30 三里塚へ！

3.30 三里塚空港廃港全国総決起集会
 日時 3月30日(日)正午
 会場 三里塚第一公園
 示モコース 三里塚→大袋→岩山→神三叉路
 主催 三里塚芝山連合空港反対同盟

革命軍・軍報

3.7 3.11 2.22 3.6

① 千葉市内パイオライン工事現場3カ所同時攻撃(炎上)
 ② 西松建設作業所事務所全焼
 ③ 千葉県警本部全焼
 ④ 千葉県警本部全焼
 ⑤ 千葉県警本部全焼
 ⑥ 千葉県警本部全焼
 ⑦ 千葉県警本部全焼
 ⑧ 千葉県警本部全焼
 ⑨ 千葉県警本部全焼
 ⑩ 千葉県警本部全焼
 ⑪ 千葉県警本部全焼
 ⑫ 千葉県警本部全焼
 ⑬ 千葉県警本部全焼
 ⑭ 千葉県警本部全焼
 ⑮ 千葉県警本部全焼
 ⑯ 千葉県警本部全焼
 ⑰ 千葉県警本部全焼
 ⑱ 千葉県警本部全焼
 ⑲ 千葉県警本部全焼
 ⑳ 千葉県警本部全焼
 ㉑ 千葉県警本部全焼
 ㉒ 千葉県警本部全焼
 ㉓ 千葉県警本部全焼
 ㉔ 千葉県警本部全焼
 ㉕ 千葉県警本部全焼
 ㉖ 千葉県警本部全焼
 ㉗ 千葉県警本部全焼
 ㉘ 千葉県警本部全焼
 ㉙ 千葉県警本部全焼
 ㉚ 千葉県警本部全焼
 ㉛ 千葉県警本部全焼
 ㉜ 千葉県警本部全焼
 ㉝ 千葉県警本部全焼
 ㉞ 千葉県警本部全焼
 ㉟ 千葉県警本部全焼
 ㊱ 千葉県警本部全焼
 ㊲ 千葉県警本部全焼
 ㊳ 千葉県警本部全焼
 ㊴ 千葉県警本部全焼
 ㊵ 千葉県警本部全焼
 ㊶ 千葉県警本部全焼
 ㊷ 千葉県警本部全焼
 ㊸ 千葉県警本部全焼
 ㊹ 千葉県警本部全焼
 ㊺ 千葉県警本部全焼
 ㊻ 千葉県警本部全焼
 ㊼ 千葉県警本部全焼
 ㊽ 千葉県警本部全焼
 ㊾ 千葉県警本部全焼
 ㊿ 千葉県警本部全焼

戦争と革命のさかまく80年代最初の首を新入生として迎えたすべての若者達、アメリカ帝国主義・カターの世界戦争排他・大軍拡宣言(年頭教書)、日本帝国主義の戦後史の反動的転覆をかけたアジア侵略・軍事大国化・天皇制ボナパルティズムの攻撃の激化、イラン・アフガニスタン危機の泥沼化、不屈に前進する朝鮮半島三里塚決戦こそその回答であることを諸君に提起する。

三里塚斗争とは何をめぐる闘いか

日本帝国主義は、侵略のための軍事空港建設という「国策」のために、機動隊の殺人の暴力をもって農民にむせいかかり、農地を強奪し、人民を虐殺してきた。「日帝が延命するためには農民は死ぬ」とする日帝にたいして、「人民が生きているためには日帝こそ死ねばし」として毎年闘にわたって実力でたたかい続ける事は容易な事ではないが、まさにこれこそ正義であり、真理なのだ。三里塚芝山農民の等は人民の本来の生き方をいさいさと示している。

「空港はもうできている」というのはひとことと言って成りがある。

三里塚芝山連合空港反対同盟の団結を破壊することなしに二期工事履行はできない。二期工事完成なしに日帝の三里塚政策のいっさいは後継するのだ。そして三たびの強制代執行に手をかけようものから、それこそ日本労働者階級、人民大衆の根底的な怒りの爆発、日帝打倒の巨大な内乱的決起を呼び起こすだろう。ここに「上からの階級決戦」をしなげたくる日帝の危機的状況にわれわれの勝利の環があるのだ。

3.14虐殺者に血の復讐、カクマル最高幹部・金沢大J.A出身・都高教潜入
 桐生草苗(35)重せん滅、リムパツク粉砕同時4カ所ゲリラ戦争
 海自軍事通信機粉砕、作戦指揮システムに大打撃、
 ① 横須賀 海自自衛艦隊司令部 通信回線6本切断
 ② 三浦半島 武山中継局 三軍統合全回線切断
 ③ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ④ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑤ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑥ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑦ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑧ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑨ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑩ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑪ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑫ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑬ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑭ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑮ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑯ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑰ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑱ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑲ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ⑳ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉑ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉒ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉓ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉔ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉕ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉖ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉗ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉘ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉙ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉚ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉛ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉜ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉝ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉞ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㉟ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊱ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊲ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊳ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊴ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊵ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊶ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊷ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊸ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊹ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊺ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊻ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊼ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊽ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊾ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断
 ㊿ 千葉県 海自市原通信所 ケーブル切断

この暴虐を許せるか!!

機動隊とブルドーザーでもって農民を殺し、農地強奪をしかけてくるというの、70年代の話ではない。今日現在、日帝千人の機動隊が空港「周辺」に侵入し、「検問」と称しては敷地内を巡回監視し、テロ・リンチを加え、農地にボロミル4(ハット)を履物で使用する枯葉剤を撒き、ちらしているのだ。

暫定闘争の重臣一層首は、牛糞がとまり、糞の産卵がとまり、てしまつていふことだ。

そして、農民道放の「暴言外発」、農業経営を空港公園に従属させ、破壊する「農業振興策」に成田用水公園用地貸し付け攻撃、敷地内拠点千代田農協移転攻撃。おまけありとあらゆる卑劣で悪どい二期攻撃、反対同盟分断・離体の攻撃が日帝・政府、公園によつてかけられてきている。これとたたかいは三里塚二期決戦の成

中核派 カクマルをせん滅せよ!

〈連絡先〉 京都市下京区寺町通松原上京極447 西田 元

否を来するたにかいである。

しかるに「京大三斗委」諸君の如く、二部々の攻撃を「甘いエサを与えて斗争の條件を収う」(此までの攻撃の延長線上にある)と平板に捉えるのは全く不十分であり、「豊地死守」の革命性がいまいに「エートピア」論議に耽ったり、サークル的個別課題のとりくみにとどめ、階級決戦としての性格を後退化させるのは、三里塚斗争時判空港着港の着ではない。

三里塚決戦で日帝の軍事大國化を阻止せよ、

帝國主義が帝國主義である限り空港は本質的にも現実的にも軍事空港である。

そしてまた、日帝の80年代戦略「戦後世界体制の崩壊のもと帝國主義間争闘戦をよりきるための対米対抗的軍事大國化」が「シ」侵略の適分だ。いまや財界・軍部は、ソムロウクー海外派共交同盟に、「徴兵制」「武器輸出」「三海峡封鎖」「極東の運糧との対決」を叫び始めている。とくに、日帝の80年代経営安眠戦略「技術立國」「航空宇宙産業をめぐる米帝との争闘戦」第四次空港整備の90年計画の階級の中心で三里塚攻撃は日帝にとって体制的死活のかがった攻撃である。

三里塚に殺し全人民の正殺を許すな、

さらに日帝にとっては、そもそも「國策」「國是」に真っ向から対決し、いかなるアメンゴムナにも屈せず、自らの正義を武装せる正義、全人民的正義としておしだし、社会間にわたるたにかいを貫徹している三里塚農民、三里塚闘争は絶対に放棄できない存在なのだ。

「階級」キヤンペーンを一蹴し、自國帝國主義の危機をその打倒の好機として歓迎し、侵略の戦争を内戦に転化するたにかいこそ、人民の真の利益を切り、帝國主義を根絶せしめるものである。しかも、三里塚闘争に殺をもつて全人民のたにかいの背骨を叩き折ってしまわなければ、すくたのたにかう人民は「三里塚」のようにたにかえは勝利できる」という確信を帯び、たにかいに赴かざるべからう。

今こそ階級の打倒の革命的打撃を、

新八、民間防衛隊本部は、安保是認・着劇放棄をめぐって人民を完全に裏切り、日本階級闘争の戦場を破壊したのには断じてない。人民のたにかい闘争当高・動員がアマルと対決し、三里塚連帯・シエント燃料輸送阻止をたにかう動員千

百千四百名を頂点に、全通、政界、沖繩(全軍)・自治派、全電通、民間争議拠点など全国傘

別に於ける労働者階級の巨大な決起、二、三被山再審業却糾弾怒闘争(六六年以来の数千の首都街頭坐り込み、機動隊解散)、宮崎・新田原基地への住民、労働者二千の突入、労基法改悪にたいひつ女性労働者、反原発闘争、沖縄のDS闘争、「障害者」解放闘争、一月三月大阪府大反響、三試験木イコソト大闘争、筑波大数百の決起、そしてなによりも、80年間にわたる二重対峙、対カウマル戦の勝利的大前進と、その中で形成されたわが中核派、革命軍による三里塚空港、ソムロウク、サミット粉砕ゲリラ闘争、新國主義本國における武装解放闘争はいまや日本階級闘争の大地にし、かり根をはっている。

二からすべてが三里塚に結集していることを見よ、ここに80年代の生き方斗いがある。

全國の人民の運動を三里塚にひとつに合流させ、権力、日共、カウマルと対決する三里塚派の潮流を形成すること、三里塚闘争を全人民のソウエトの拠点として大いに発展させることをもつて、日帝とカウマルと人民の階級的打倒の革命的打撃をかわちとろうではないか。このとき、危機を革命に、侵略を内戦に転化し、日帝打倒まで止むことのない長期激戦の階級の力として日本のプロレタリアート人民は世界史に登場するだろう。

レーニンとロシア革命が貫徹し、スターリン主義者や反革命カウマルが恐怖し憎悪する、革命的祖國賊北主義の旗を今こそ高く掲げ、80年三里塚決戦をその水陸としてたたりおろす。

80年決戦の武装反革命カウマルをせり倒せよ

今日、ファシスト、カウマルは、三里塚農民に連日脅迫電話をかけ、三里塚をどう所働者「白色テロ」で襲いけり、ソ連と日本が戦争にならば、たにかい闘争をやるべきではない(の過田論文)と公言し、どう農民、部落民、「障害者」を女性を「ロガス」と罵倒している。80年決戦を迎えて三里塚への敵対を深め、白色テロリストとして自己を強化させるカウマルに対し、わが中核派は百万人民の最先頭で容赦なき赤色テロリズムを加えていくであらう。

* * *

オバへの新入生諸君、学生「運動」こそ日本階級闘争、80年三里塚決戦の最先頭で決起しよう。60年安保、70年安保沖繩決戦は全学連が牽引した勝利の大道はわが中核派とともに斗いぬくことだ。

